

## 第4学年 国語科学習指導案

1. 単元名 詩を楽しもう  
教材名 「ぼく」（木村信子）  
「つぶやきを言葉に」
2. 単元目標 ものの見方や考え方を話し合いながら広げ、工夫して詩を書いたり声に出して読んだり聞いたりする。  
詩のおもしろさに気づき、進んで詩を書いたり読んだり聞いたりしようとしている。（関）
  - ・ 友達の詩から感じたことを自分の言葉で話す。（話）
  - ・ 何を伝えたいのか考えながら詩の音読を聞く。（聞）
  - ・ 日常生活の中から不思議に思ったこと、はっとしたことを、言葉を選んで詩に書く。（書）
  - ・ 詩を読み味わいながら、作者の考え方について叙述をもとに想像する。（読）
  - ・ 書かれている内容の中心がよく分かるように声に出して読む。（読）

### 3. 知的好奇心を引き出すための指導の工夫

#### （1）指導の工夫

「ぼく」は、難しい言葉や漢字もない、どの子にも読みやすい詩である。前半部分は「地球上の中ではとても小さい存在のぼく」というわかりやすい内容となっている。しかし、

後半部分の「ぼくという宇宙」という表現を理解することは簡単ではない。本学級の児童は、作者や登場人物の気持ちや考えを想像することは苦手と感じている児童も多い。表面的な叙述にとらわれ、行間を読む力がまだ十分育っていないことが原因と思われる。そこで、感想を交流し合う中で、自分の存在、お互いの存在への思いをとらえさせていきたい。また、句読点や連がない詩なので、書かれている内容のどこで切ったらよいのか、作者の思いを表現するためにはどのように読んだらいいのか話し合いながら音読をしていきたい。

「つぶやきを言葉に」の五編の児童詩については、どの作品も見慣れたもの、聴きなれた音などに連想を働かせて作られている。表現の工夫を意識して書くことはまだできていない児童が多いので、話し合いによってもものの見方、表現の仕方に関心を持ってほしいと考える。そして、これらの作品のものの見方・表現の工夫を学び、一人一人の作品作りに生かしていきたい。

本単元では、一つ一つの言葉に着目し、**自分の思いを伝えること、相手が何を伝えようとしているのか考えながら聞くこと**を大切に取り扱いしていきたいと考えた。

一人一人が詩から感じ取った思いを交流する活動では、どの文章からそう思ったのか、他の人はどう考えたのかはっきりさせていきたい。詩を書く活動では、教材の詩の表現を学んで書いた自分の詩を友達が読むことにより、自分の思いが友達にどのように伝わった

のかを考え、表現方法にもう一度目を向けさせたい。詩を音読する活動では、友達の考えのよさや違いに気づき、友達の考えを取り入れながら詩を読み直してほしいと考えた。また、自分を表現する楽しさ・充実感も感じ取らせたい。自分の言葉が相手にどのように伝わるのか、友達の思いがどのように伝わったのか意識させるために音読を聞き合う場を設けたい。

そこで、意欲を持ってこれらの活動を行うために次のような手立てを考えた。

#### 「ぼく」の音読を学級全員で作る楽しさ

作者の思いをみんなで考えたあと、その思いを表現するためにどのように読むか一人一人が考え、意見交流したり実際に読んだりする中で、学級全員で音読を作り上げる活動をする。表現の工夫を教えながらも、子どもの思いを生かしていきたい。

#### 詩の感想交流会

自分が書いた詩から自分の思いが相手に伝わるかどうかお互いの詩を読み合い感想交流をする。その中で、自分の表現をもう一度推敲しようという気持ちを育てたい。

#### 詩の音読対戦会

自分たちの思いを詩に書くだけでなく、さらに強く伝える表現の工夫として、詩を音読発表する活動を取り入れた。音読発表会を対戦形式にすることによって、勝つためにどのように読んだら聞き手に伝わるかという工夫に意欲を持って取り組むと考えた。読み方を考える活動場面では、言葉を一つ一つ吟味し、自分たちの中で十分なイメージ化をする必要がある。つまり、表面的な叙述の裏にある思いを汲み取っていかなくてはならない。また、グループ対抗にしたことにより、友達の考えを聞き合い、よりよい表現のしかたを考える機会を持つこともでき、一人では声に出すことが恥ずかしくてもみんなと一緒に声に出すこともできる。評価（審査）の観点をはっきりさせることで、自分たちの表現方法の見直しもねらいに応じてできると考える。

### (2) 指導計画（全10時間扱い）

#### 第1次 「ぼく」を読み味わう。（2）

- ・ 自分の考えや感じたことなどを書き込み、発表し合う。
- ・ 「ぼくの宇宙」が意味することやどこで切るのか考えながら音読する。

#### 第2次 五編の児童詩を読み味わう。（1）

- ・ 詩の特徴について話し合う。

#### 第3次 詩を書き、感想交流会をする。（2）

- ・ 発見したこと、感じたことを表現を工夫して短い言葉で書く。
- ・ グループ内で詩を読み合い、感想を交流し、自分の詩を推敲する。

#### 第4次 音読対戦会を行う。（5）...本時5 / 5

- ・ 自分たちが書いた詩をどのように読んだらいいか一人一人考える。
- ・ グループでそれぞれの詩をどのように読むか話し合う。
- ・ グループごとに音読練習をする。
- ・ 音読対戦会を行う。

(1) 本時の目標

自分たちが書いた詩を思いが伝わるように読んだり、友達が何を伝えようとしているのか考えながら聞いたりする。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ( 評 価 )
<p>1. 音読対戦会のめあて、方法を確認する。</p> <p>2. 音読対戦会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2グループが音読発表をする。</li><li>・ 聞き手が感想を言う。</li><li>・ 聞き手、全員が判定をする。</li><li>・ 審査結果を発表する。</li><li>・ 音読対戦会を3回(6チーム)行う。</li></ul> <p>3. 活動のふりかえりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 審査のポイントに気をつけて音読したり、聞いたりできるようにする。</li><li>・ 友達のよさを進んで発見できるように言葉をかける。</li> <li>・ 読み方だけでなく、言葉の使い方にも着目できるように、子ども達が生きた詩を事前に配って読んでおくようにする。</li><li>・ 審査の集計は教師で行う。</li></ul> <p>詩を音読したり聞いたりすることにすすんで取り組んでいる。(関)</p> <p>言葉の使い方や表現の工夫などから友達の思いを感じ取る。(聞)</p> <p>自分たちの思いが伝わるように音読する。(読)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業への意欲や活動についてふりかえりをする。</li></ul>

参考文献 「これだけは教えたい基礎・基本 国語科」(図書文化)